

113人

になる疾患をみると、図二の様になります。例えばリウマチで寝ている人の七五%は、五年以上になつていているということです。

痴呆性老人

「この頃、物忘れが多くて」という会話はよく聞かれます。しかし程度がひどくなったり、又夜中に家族が寝静

まつてから大声でさわぐ等があると家族はどうしていいかわからなくなり、これが痴呆症状です。

多いのは、あてもなく歩きまわること

家族の方からの相談や、民生委員、保健婦等の活動からみつかつた痴呆性老人十三人についてみました。よく

聞かれる症状は、あてもなく歩きまわる、自分の名前がわからない等です。

安心できる街に

今回紹介した数字は、実際の一部にすぎません。又表には出なくても、寝ている本人や家族の方々のご苦労は測り知れないものがあると思ひます。

高齢化社会が深刻になつていゝ今、寝たきりになる原因疾患の予防、さらに健康の増進について、又問題をかかえている方々のための福祉制度等について、考えるべき問題は多くあります。

誰もが迎える「若い」について皆でとり組み、安心できる街にしたいものです。

ふるさとカレンダーは届きましたか！

昭和五十七年から作製しましたふるさとカレンダーも八回目を迎えました。今年はず年に続き「ふるさとの自然」と題しサプタイトル「都留の植物」にスポットを当て編集してみました。

私達の住む都留市は、面積の八十五パーセントが山です。

その山々が豊富な水と織り成す四季折々の景色は、都留ならではの情景ではないのでしょうか。そんな情景の中で軟らかいコントラストで四季のうつりかわりを表現してくれるのが植物だと思ひます。

本市は、植物の分布も広く自然の恵み多い所です。とも

すれば見過ごしがちな草花も良く見ればどこかで見たとことのある花、こんな感想をお持ちになつた経験があることと思ひます。

本市にはまだまだたくさん草花が自生しています。カレンダーにはその一部を掲載いたしました。市民の皆様にご利用して頂けることをお願ひします。

ふるさとの自然

「都留の植物」カレンダー発行によせて

都留文科大学教授

森江晃三

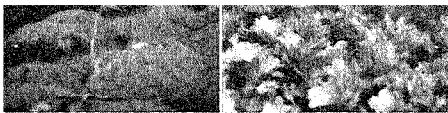
今年のカレンダーは都留に咲く花や実です。このカレン

今月のカレンダー

「一月の花・フクジュソウ」

花が咲いていけば、誰にでも分る花ですが、花後、ニンジンのような葉をのばしている時は、これがフクジュソウかと思われほどです。実はコンペイ糖のようです。夏までは地上部は全て枯れ、根を地中深くはり、次の寒さがくるまでに来年の花芽を地下に用意します。この仲間(フクジュソウ属)はヨーロッパにもありますが、ヨーロッパのものは普通まっ赤な花をつけます。園芸植物のアネモネも近い仲間ですので、その形を思いうかべればいいでしょう。日本にも園芸品種に赤いフクジュソウがあるそうです。

フクジュソウはどちらかというと寒い地方を好みます。本市での野生のものは、現在ではほとんどみつかありません。



ふるさと自然

都留の植物

都留文科大学教授
森江晃三

